

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.2  
平成25年4月17日

## 学校賞受賞 ー第45回手紙作文コンクール

日本郵便株式会社主催の「第45回手紙作文コンクール」に桜小学校の児童が応募し、応募総数52,933点の中から、学校賞をいただきました。全国で100校、愛知県では、桜小学校と七宝北中学校の2校だけの受賞でした。

このコンクールは、手紙文化の振興を図るとともに、文章表現によるコミュニケーションを通じて心豊かな子どもたちを育てることを主な目的としたものです。

大変立派な賞を頂き、ありがとうございます。子ども達の頑張りを讃えたいと思います。

### 学舎の風景

桜小学校のお別れ会を取材したクローバーTVの企画する「学舎の風景」が今日から放映されます。昨日、全校朝礼の折、完成したDVDを全校児童で視聴しました。各学年代表による作文発表、「絆」「校歌」の斉唱等を改めて視聴すると、分離に伴う別れの悲しさ・寂しさが込み上げてきました。

3年生のH君の作文には、「桜小と日の出小は絆でつながるはず」という言葉が出てきました。その「絆」について考えてみたいと思います。

### 絆について

みなさん、こんな「糸」を知っていますか？ それは…

① 目に見えない糸です。

② 一度つながってしまうと、どんなに遠くても、何年経ってもつながっている糸です。

さあ、どんな糸でしょう。わかりますか？ 答えは…「心の糸」です。心と心をつなぐ糸です。「心の糸」は、目には見えないし、触っても感じることはできませんが、どんなに遠くても、いつまで経ってもつながっています。

この「心の糸」は、誰でも持っているし、そして、誰にでもつくれるのです。「心の糸」を難しい言葉で言うと、「信頼関係」と言います。「信頼関係」とは、「この人なら信用できるな、大切な人だな」と思う気持ちのことです。一緒に勉強したり、スポーツしたり、行事に取り組んだり、校庭で遊んだり、たまにケンカすることもあるけれども、いろいろ話し合ったり、また仲直りしたり…。そうやって少しずつ、少しずつ、「心の糸」は太くなっていきます。

私たちは、毎日、少しずつ、少しずつ糸を太くしていく必要があります。校長先生もそうやって、いろいろな人との心の糸を太くしてきました。

「心の糸」を漢字で書くと『絆』と書きます。「きずな」と読みます。この字をよく見てみると、糸が半分と書いてあります。「半」という漢字は2年生以上は習いましたね。1年生は2年生になったら習います。

さあ、この「絆」という漢字、よく見てみましょう。そう、糸は半分ずつなんです。自分から半分、相手から半分。ちょうどまん中で糸をつなぐのです。自分の糸で相手を縛ってはいけません、相手に縛られてもいけません。お互いがお互いを助け合ったとき、『絆』が生まれるのです。

みなさんは、どうですか？ 心の糸は、絆は、何本結んでいますか。友達と結んでいますか。先生と結んでいますか。おうちの人と結んでいますか。地域の人と結んでいますか。きっと何本も結んでいますね。

結ばれた「心の糸、絆」はどこに行っても、いつまで経っても切れることはありません。

『絆』をさらに、太く、強くして行ってほしいと思います

